

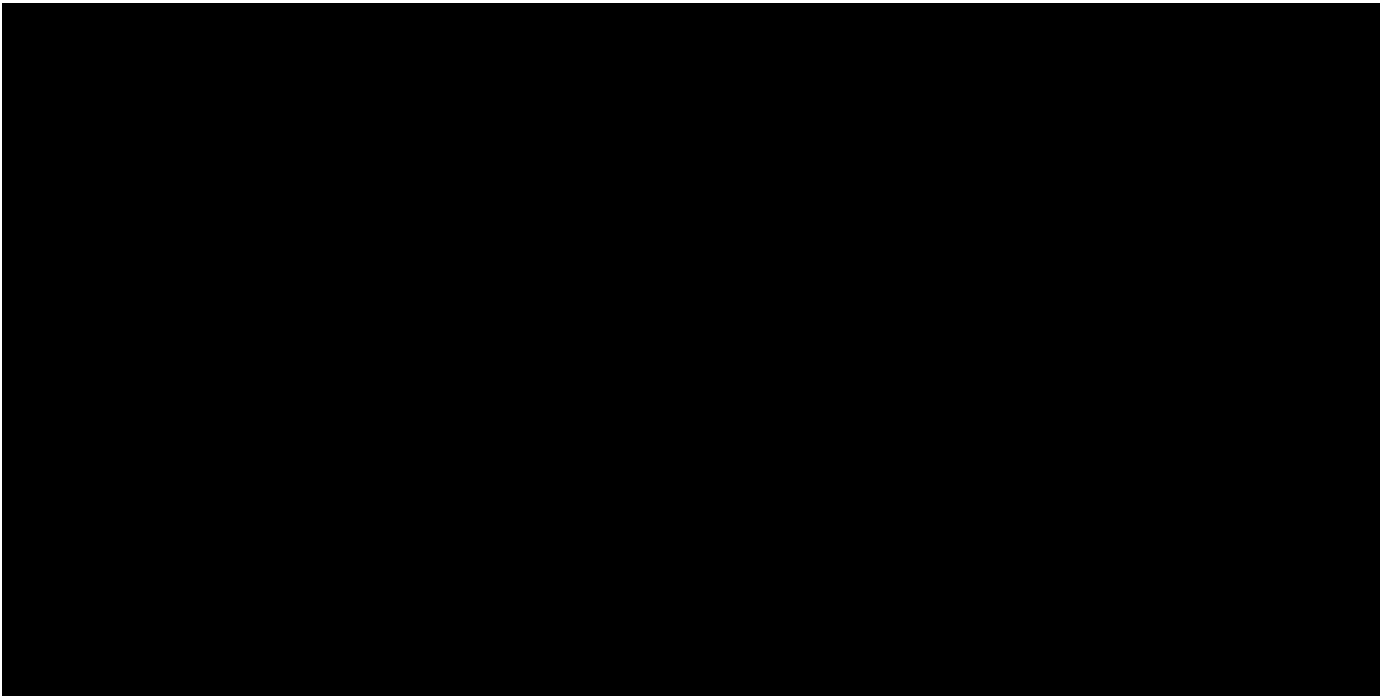


平城京から昭和 50 年に発掘された。現在見ることが出来る最古級の庭園である。この庭は天皇家か、その一族に関係する曲水宴遊の施設と言われ瑠璃盃を流し、面前を過ぎるまでに詩を作って詠み、盃を干す酒宴である。蛇足ながら「お流れを頂戴」とは「上流にいる上席者が故意にパスして末席者に酒を回す」から来ている、とのこと。さて、庭は総て敷石が敷き詰めてあり、水が澄み且つどこに座っても衣服が汚れないようにしてある。また、川幅は 2m から 6m で、くねくねと蛇行した川の長さは 55m もある。

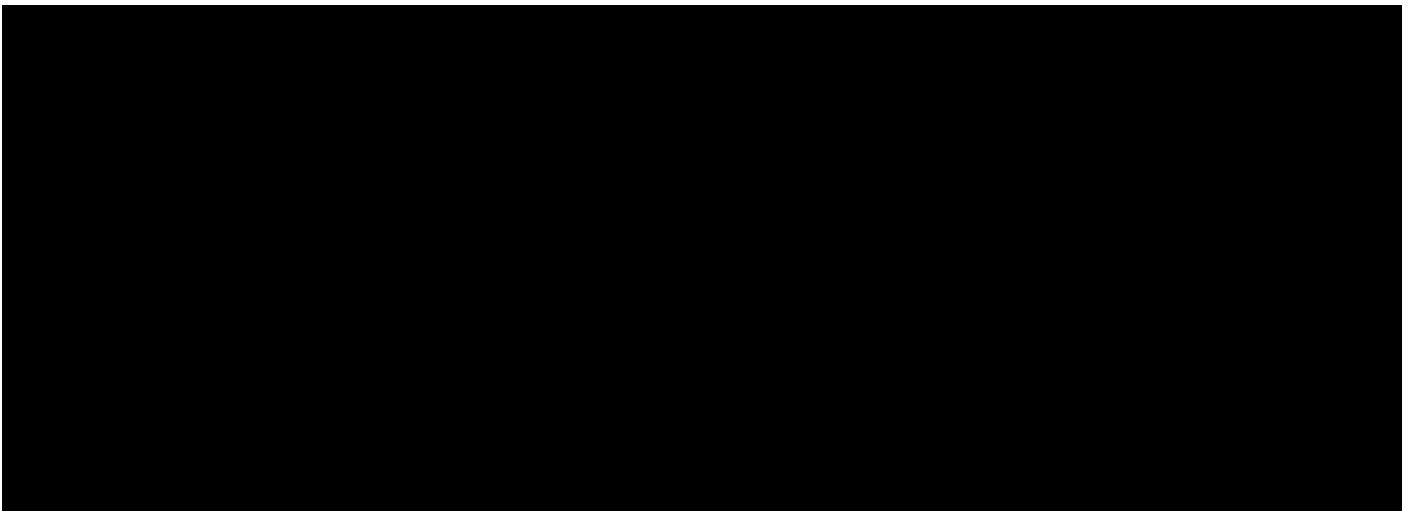
既に奈良時代のこの庭に日本庭園の大半の要素が含まれていて驚嘆に値する。

なお、本来の曲水の儀式は中国の禊であった。

曲水の凸部（出島にある凹部は舳いを象徴）と凹部護岸の意匠



上流側からの景 洲浜の先端に石組みがあり、その先に岩島がある。これは洲浜を長く見せる手法であり、平安時代の作庭記にも記されているが、その先駆的な内容だ。自然の造形を抽象化する作業が相当確立していた。



下流側からの景 このような自然を参考としながらも人工的な意匠は現代的なデザインともいえる。





曲水はS字型に流れ屈曲部の凸部には石を組み自然の岬のようにし、特に先端部は「作庭記」の荒磯の風景だ。